

企画名： 「絵本『さだ子と千羽づる』チェロ伴奏付き朗読会」
実施日時： 2012年1月15日(日) 13:40-14:10
実施場所： パシフィコ横浜会議センター 4F 421
登壇者： 遠藤京子（出版社代表・NPO「オーロラ自由会議」代表理事）
山口泉（作家・NPO「オーロラ自由会議」副代表理事）
佐藤まさ子（介護ケアマネジャー・NPO「オーロラ自由会議」理事）
長谷川千穂（医師・NPO「オーロラ自由会議」会員）
黒澤洋一郎（介護ヘルパー・NPO「オーロラ自由会議」会員）
湯浅佳子（鍼灸師・SHANTI=絵本を通して平和を考える会=代表）
榮島四郎（4歳児）
中根秀樹（映像作家）
高橋裕子（映像助手）
参加人数： 50名
文責： 山口泉（作家・NPO「オーロラ自由会議」副代表理事）

絵本『さだ子と千羽づる』は、1994年に日本語版、95年に朝鮮語版、96年に英語版が刊行された。広島・平和記念公園に建つ「原爆の子の像」のモデルともなった佐々木禎子さんは2歳のとき被爆、10年後に発症した白血病のため、短い生涯を終えている。

この絵本の特徴は、原爆投下にいたる前史としての日本のアジア侵略の戦争責任についても、また無差別大量殺戮兵器を使用したアメリカの責任についても、さらに放射線被曝の問題についても、子どもたちにも分かりやすい文章と絵とで丁寧に描いているところ。刊行直後から数々のメディアで紹介され、97年、第3回「平和・共同ジャーナリスト基金賞」大賞が授与された。

8月6日を中心に18年連続して行なわれてきた広島はじめ、ワシントン・ホワイトハウス前など、国内外数十ヶ所で展開してきたチェロ伴奏付き朗読会を、今回、[『脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA』](#)で行なうこととしたのは、東京電力・福島第1原発事故が、二重の意味で広島・長崎の被爆と密接な関係を持つと、私たちが認識するためだ。

第1に、広島・長崎という核兵器の惨禍を経験しながら、それをきちんと伝えてゆくことをせず、戦争責任を曖昧にしたまま、戦後、アメリカの核戦略・原発政策に加担してきた結果が、今日の事態を招いたのだから。

第2に、佐々木禎子さんの悲劇は、まさしく今後、福島現地をはじめ、多くの子どもたちの上にも起こり得る可能性のある問題だから。

こうした思いのもと、今回の朗読会も、幼い子どもを含む家族連れをはじめ、多くの聴衆を得、熱心に耳を傾けてもらえるものとなった。場面を追うに従い、参加者の熱気は高まり、禎子さんの死か

ら核廃絶の連帯へのメッセージへと結ばれるエンディングでは、会場の各所から啜り泣きの声が聞こえてきた。

司会・読み手の5名は皆、多年にわたり朗読を担ってきたメンバー。私自身、世界各地でチェロ伴奏を行なっているが、今回は3・11以後、最初のまとまった朗読会として大きな意義があったと考える。

改善点としては、現下の危機的な状況におけるイベントとして、より多くの人びとが参集しやすい入場料設定、また企画出展手続きの簡素化などがなされていたなら、さらに良かったのでは。今回のような大規模なもの、また「有名人」を糾合したものでなくとも、継続的・恒常的に、全国各地でこうした企画が展開されてゆくことを望みたい。

